



▲新本館の完成予想図

本館の新築を計画 旭中央病院の再整備

診療圏人口100万人を擁し、東総地域の中核病院として、また旭市民の安心・安全を守る上で大きな役割を果たしてきた旭中央病院では、新本館建設を含む再整備事業を計画しています。

現在、基本設計（＊1）を進めていますが、9月定例市議会で旭中央病院再整備事業に関する実施設計（＊2）の補正予算案が可決されたことにより、今後、より細かな設計へと進んでいきます。今回、再整備の内容についてお知らせします。

＊1基本設計／「建物のデザイン（コンセプト、構成イメージ）」をもとに、「建物の基本（構造・レイアウト・電気・空調設備など）」を決めること。

＊2実施設計／「建物の基本」をもとに、実際に施工業者が工事できるように具体的な材料、製品、数量などの「建物の仕様」を決めること。



■再整備事業の概要

- ・新本館の建設（免震構造を採用）
鉄筋コンクリート造、地上12階
塔屋1階、高さ58・25m、延床面積54、938㎡
- ・既存棟の改修
- ・その他（医療機器、情報システム等）

■費用

- ・総事業費316億9、561万円
- 新本館の建設
189億8、011万円
- 既存棟の改修
36億9、552万円
- その他
90億1、998万円

■資金計画

- ・病院が積み立てている資金から
107億9、561万円
- ・外部資金（政府資金など有利なもの）から
209億円

再整備に至る背景

旭中央病院は、長年にわたり地域の中核病院としてさまざまな医療を提供し、市民の皆さんをはじめ、地域、県、国からも高い評価を受けてきました。その一方で、次のような問題点を抱えており、これらを改善していく必要

があります。

■機能集約の必要性

昭和28年の開院以来、地域の皆さんの医療ニーズにこたえ、急速に進歩する医学・医療に対応するために、病院では数多くの増改築を行ってきました。この、度重なる増改築で診療部門が大きく分散し、患者や職員の移動する距離や時間が大幅に長くなり、診療における効率が低下しています。

例えば、外来部門から先進的医療に不可欠な検査機器であるMRIに到達するための移動距離は、最長で300メートルを超えます。これは、お年寄りや体の不自由な方をはじめとする患者にとつて、非常に大きな負担となります。来るべき高齢化社会を考えると、医療機能を集約し、移動による負担を低減することが求められています。

■耐震・老朽化への対応

病院の建物のうち50%以上が、建築基準法で新耐震基準が設定された昭和57年より前に建設されているため、基準に見合った耐震化が図られています。大規模地震などの災害時には基幹医療センターとなる病院として、安心・安全に医療提供が行える高い耐震性が不可欠です。

既存建物を耐震構造にするという手段も検討しましたが、築40年を超える建物など老朽化が進んだ現状を考えると、早期に耐震性をもった建築物へ建

て替えることが必要となります。

■優秀な人材の確保

最先端の医療を提供するためには、医師・看護師をはじめ優秀な人材に集まってもらうことが求められます。

現在もさまざまな手段で、優秀な人材確保に努めています。しかし、所在地が大都市ではないというハンディを乗り越えて、今後も数多くの優秀な人材を確保し続けるには、施設面からも労働環境をよりよくすることが重要です。地域の皆さんはもちろん、医師・看護師にとつても魅力的な病院であり続けるためにも、環境の整備が求められています。

再整備に向けた取り組み

旭中央病院では、さまざまな問題に対応するため、平成15年に作成した中期経営計画の中で、「病院施設再構築に向けたマスタープラン（基本構想）の作成」を計画しました。その後、マスタープランを具現化するための取り組みをスタートさせ、平成18年に「基本計画」、今年の4月からは「基本設計」を作成するなど、再整備事業について着々と検討を重ねてきました。

また、再整備の事業性について収支シミュレーションを複数行い、政府系金融機関による検証の結果、資金計画も含めて「妥当である」との評価を受けています。



再整備後のイメージ

■患者にとって快適な空間の創造

- ・入院する患者の環境をよりよくするために、個室を増やします。
- ・ベッドサイドで、テレビの視聴だけでなくインターネットの閲覧などができるように検討します。
- ・患者やお見舞いに来た方の環境をよくするために、売店・喫茶施設の整備・充実を図ります。特に、患者が現金を持ち歩かないですむように電子マネーなどの決済方式を検討します。
- ・病気や身体のことを調べられるように、患者専用の図書館を設置します。
- ・最上階（地上12階）に展望ラウンジを設け、患者や市民の皆さんに眺望を楽しんでもらえるようにします。
- ・患者の給食の調理方法に、新たにメニュークックチル方式*を採用することで、メニューのバリエーションを増やし、美味しく食事ができるようにします。
- *ニュークックチル方式／食事を急速冷却、チルド保存し再加熱カートで調理する方式。効率的で計画的な調理が可能になります。

■病院機能の充実

①救急機能のさらなる充実

- ・あらゆる救急患者を365日24時間受け入れている救急機能をさらに充実させるため、夜間救急の入院をしやすくするオーバーナイトベッドを

15床新設します。また、CTなどの検査装置を周囲に機能的に配置します。

②年々増加するがんの患者に対応するため

- ・治療に使用する放射線治療装置リニアックを1台から2台に増設します。
- ・通院で治療する患者のために、外来専用の化学療法室（40ベッド）を設置し、専門のスタッフにより抗がん剤治療などを行います。

③手術件数の増加に対応するため

- ・手術室を12室から15室に増やします。
- ・手術室にMRI（またはCT装置）を導入し、手術中に検査を行えるようにします。

④検査の待ち時間を短縮するため

- ・エックス線診察室を集中的に配置し、患者の移動時間や待ち時間を短縮します。

- ・長い待ち時間となっている検査に関して、検査室数を増やします。

内視鏡検査室／5室↓8室

腹部エコー室／6室↓10室

心臓エコー室／4室↓5室

心電図室／2室↓3室

⑤血液疾患の患者に対応するため

- ・病棟内に2室ある無菌室を、完全無菌室2ベッド、準無菌室4ベッドにします。

⑥保健医療の充実

- ・日本人の三大疾病（がん、心臓疾患、脳血管疾患）の早期発見・早期治療を実現するために人間ドックを充実

させます。また、健診を充実させることで、糖尿病などの生活習慣病の発症を防止し、市民の健康を促進させます。

■シンプルで安全な建物構造

- ・新本館に病院機能をわかりやすく配置することで、建物間の長距離移動や、病院内で迷うことがなくなります。

- ・新しい耐震基準に適用する設計を行います。

- ・免震構造を採用することで、震災時でも安心・安全の医療提供ができるようになります。

- ・病院内の電力供給が途絶えないように「特別高圧本線・予備線2回線受電」や「無停電電源装置」を採用します。

〈問い合わせ先〉

旭中央病院再整備室

☎63-81111

■今後のスケジュール

平成19年11月	実施設計着手
平成21年1月	建設工事着工
平成23年3月	新本館竣工
平成23年5月	新本館開院。既存棟の改修・解体。跡地整備の開始
平成25年1月	整備完了

The site plan illustrates the layout of the University of Tsukuba Medical Center, with buildings color-coded to indicate their status: dark grey for new construction, medium grey for renovation, light grey for continued use, and white for scheduled removal. Key buildings include the New Main Building (新本館), various numbered halls (1号館 to 7号館), a PET building (PET棟), and a nursing school (看護専門学校). The plan also shows surrounding infrastructure like roads, parking lots, and other campus facilities.

Legend:

- 新築 (New Construction)
- 改修 (Renovation)
- 継続使用 (Continued Use)
- 随時撤去 (Scheduled Removal)

撤去後のスペースは駐車場として整備します。